

## 革新的な大シンポジウムの（ご案内）

### エコロジカルな経済（経済発展と環境の両立）プログラムへの参画

日時：2023年1月14日（土）13:30～16:30 受付13:00から

場所：大阪商工会議所 7・8F 国際会議ホール(720名)

主催：(株)エコ・サポート 代表取締役の山本泰三は1964～2000年に大阪ガス(株)勤務、2000年からエネルギー・環境について技術及び経営のコンサルタントとして独立・開業。

テーマ：わが国のエネルギー戦略の再構築と展開で、日本再生をする

参加費：2000円（資料：池上先生の当日用論文及び月刊エコサポート通信5冊を含む）  
当日お支払ください（お申し込みは裏面参照）

基調講演（各15分）及び会場参加者との対話：池上惇京大名誉教授

1933年大阪市生まれ。天王寺高校・京大経済学部卒、経済学博士。瑞宝中綬章・アカデミア賞受賞者。恩師は森嶋道雄先生（1923～2004、1976年53歳で文化勲章を受賞）のもと英国LSEに留学された。弟子は植田和弘京大名誉教授（1954～、工学博士、経済学博士、環境経済学の第1人者）

第1部：大阪の歴史と役割、2025年大阪・関西万博に向けて

池上先生の祖父が高度経済成長期の大正時代に10年間大阪市長。大大阪の土台を作られた。

第2部：「エコロジカルな経済」の歴史と今後の展開

英国も日本もエコロジカルな経済学についての200年以上の歴史があり、今後の本流になる。

第3部：モノづくりの復活をめざして—インドネシア現地を見て行動を起こそう—

日本のモノづくりを復活させ前進するために目標に向けて交響乐的な動きが重要になる。

地球温暖化問題の解決及び途上国の自立に向けて：グレートリセット＜大転換＞へ

—2023年から活動し、2025年大阪・関西万博を経て

◆CN（CO<sub>2</sub>排出ゼロ評価）のバイオマス（油ヤシの実：FFB）の生産・利用。

◆1000カ所（インドネシア及びマレーシア）の既設パーム農園の「地域総合開発」計画推進。

⇒途上国の自立・発展とエコロジカルな環境保全の両立が基本

⇒2050年までにCO<sub>2</sub>排出量は日本の総排出量の5倍以上を削減できる。

●インドネシアのジョコウィ大統領：2019年10月の大統領就任演説で宣言した。

⇒インドネシアは2045年までに、GDPを2020年の5倍（700兆円）に増大させる。

- ・ 2024年から首都を東カリマンタンに移転する。
- ・ 新幹線や大規模水力発電など現在は高度経済成長期で建設ラッシュ。
- ・ 2022年、G20で首脳宣言（全会一致）をまとめ、驚異的な実績をあげた。
- ・ 2023年1月：世界経済フォーラムで特別講演する。

5月：G7（広島）に岸田首相はジョコウィ大統領を招待する。

⇒世界の新しいリーダーとしての地位は不動になる。

◆インドネシア共和国と日本は兄弟国で強い信頼関係がある。

▼農耕型社会、大乘仏教国の土台が共通、島国であるという安全保障の優位性。

▼憲法（1945年8月）の理念：民族の自立、恒久平和、社会正義（公正）。

▼資源の豊かさ：年中温暖で米は年3回収穫、土地の広さ、人口は2050年委は3億人に。

◆(株)エコ・サポートの特許が支え。

※大阪の大気汚染公害の克服（省エネ及び大気汚染がないLNG火力が2002年より稼働による）

※(株)エコ・サポート主催のシンポジウム：2018年10月、11月、2019年1月、3月、

2020年3月、2022年12月。赤字はインドネシア政府に対するシンポジウム

※世界中の国々が、(株)エコサポートの特許を土台とした「地域総合開発」に参画できる。

## <お申し込みなど>

少数精鋭で活動することの重要性は十分に認識して行動しています。今回のシンポジウムは徹底的に作業を切り詰めて対応することになりました。ご協力ください。



**お申し込み方法：下記に Fax を基本としてお申し込み下さい。**

※メールでも対応はします。

大阪商工会議所  
7・8F 国際会議ホール (720 名)

大きなメリットがあるシンポジウムです。関係者をお誘いくださるようお願いいたします。会場は十分に広いですが、当日は受付番号で対応しますので、宜しくお願いします。

**Fax ; 078-777-0992 (株)エコ・サポート 受付番号を記入して返送します。**

氏名 参加者数 名  
※複数の場合代表者以外は氏名のみご記入ください

所属

連絡先 Fax  
(その他)

受付日・受付番号

属性：学生、市民、技術士、企業、商工会議所会員（大阪、東大阪）、その他

### 【注記】

長い間、2050 年のあるべき姿の実現は可能であると行動してきた。バックキャストという手法で余分な行動は排除できるのに、世の中は動かない。「諦める」訳にはいかないのが自然体で続けていく。今回のシンポジウムは池上先生との 2 人三脚で行動することになった。大筋について調整はできているので案内・運営などは、ぶっつけ本番になる。

目標の共有と前進に向け、社会実験的な要素の積み重ねであることを了承して頂きたい、これからどうするかについては、月刊エコサポート通信新 5 号（2 月発刊）に反映させ、前進させる。思わなところでハーモニー（調和）や共鳴の輪が広がっていく。土台となる情報発信に自信が持てれば、ブレークスルーできる。

高度経済成長時は決定的な問題がない限り、誰もが新しいことに挑戦して前進して行けた。現在は、グローバル化、ICT（情報通信技術化）などの変化が激しいが、日本社会は過剰にリスク対策をして、低成長がさらに拡大している。持続可能か、長期的・広域的に考える余裕が生まれれば、好循環に流れが変わるものである。

歴史を振り返ると、いよいよ転換期であり、2050 年は明るい。

- ・地球は、生き物としての人間が 100 億人生きるためには十分に広いという。
- ・化石燃料は天然ガス、再生エネルギーは植林により循環利用できる油ヤシの実が中心になる。

◆ パーム農園の実像を知って現地との交流・信頼関係の構築が必須です。

2023 年には IAIA23（国際影響評価学会）がマレーシア（カリマンタン島）のクチンで開催されるので、参加して現地の実状を調査して、交流を図ります。 ■

